

大きく育て!

幕別町役場
1976.5.23

(今月の主な記事)

- 町づくりに深い理解…… 2・3 ページ
- 幕別消防署庁舎を建設…… 4 ページ
- 苦しい国保会計…… 5 ページ
- 多い交差点での事故…… 6 ページ
- スポーツニュース…… 7 ページ
- ふるさと館ニュース…… 8 ページ

まぐべつ

昭和
'81 (56年)

355

●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555) 4-2111
●編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 ●印刷・ソーゴ印刷

8

りに深い理解

第1回町づくり見学会終る

見学会に百五十人が参加

第一回町づくり見学会が、六月二十七日から三十日まで四日間行われ、合わせて百五十人が参加し町づくりの現状を見学しました。

この見学は、ことしからスタートしたもので、町民の皆さんに町づくりの様子を見ていただき、町づくりをより深く理解していただくというものです。

公共下水道終末処理場、明野が丘公園、札内南小学校などを見学した後、大石町長を囲んで「懇談会」も開かれました。

見学力所を中心にお知らせいたしますので参加できなかった方も町づくりについて考えてみましょう。



大石町長を囲んで懇談会

同じ町に住みながら、自分たちが生活している地域から一歩外へ出るとわからないことがたくさんあります。「町づくり」も同じで身近なところで行われている事業は理解できても、町全体となるとわからないことがたくさんあるのではないのでしょうか。

そのようなことから、町づくりの現状と町施設を見ていただき、

町づくりへ理解を高めていただく、「町づくり見学会」を開いたものです。

見学会には男性三人を含む百五十人が参加しました。参加者は札内地区の方が多く、特に町外から転入した人の参加が多く、真剣な表情で見学していました。

見学会は、町民会館前をスタート。公共下水道終末処理場―明野が丘公園―浄水場―糠内公民館と回り、その後、十勝農業賞を受賞した美川の山田久一さんの牧場を見学―札内南小学校―あかしや終末処理場―依田公園の順で見学しました。

見学会終了後、幕別温泉ホテルの広間において、大石町長（二十七日のみ。二十八日―杉山建設部長、二十九日―高橋助役、三十日菅原総務部長）を交え、町づくりについて「懇談会」が開かれました。

懇談会では、ゴミ問題や道路の整備、学校プールの建設などを望む意見や質問が出されました。

また、参加した皆さんから「見学会に参加して、幕別町の広さと町づくりが計画的に行われている

ことがわかりました。私たちは、いつも身近かなことばかり考えてきましたが、これからは町全体のことも考えなければ」と感想が話されました。

この「町づくり見学会」は九月下旬にも予定されています。今回参加できなかった方は、ぜひ参加してください。

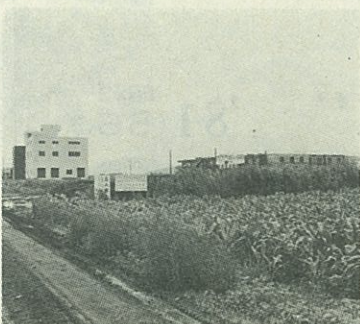
見学力所の内容をお知らせいたしますので参加できなかった皆さんも「町づくり」について考えてみませんか。

① 公共下水道終末処理場

下水道は、雨水や日常生活から生じた汚水を処理し河川へ放流するための施設で、私たちが健康で文化的な生活を営むのに欠かせない施設です。

公共下水道事業では、幕別市街地区を二地区（鉄南・鉄北）に分け、昭和五十八年度共用開始を目指し事業が進められています。

事業は、管渠が四五％、管理棟が完成、水処理棟は下部（五五％）



下水道管理棟（左）と水処理棟（右）

町づく

が完成しています。
今年度の事業費は六億八千万円が見込まれていますが、そのうち一般財源が一億二千万円必要です。町税が九億円ですので、下水道事業がいかに大事業であるかわかると思います。

2 明野が丘公園

町開基八十年記念事業として、昭和五十二年に十カ年計画でスタートしたものです。
総面積二十五畝、自然に親しむことができ、町民の皆さんが家族



頂上からは幕別市街が一望できる

で憩える公園づくりを進めています。頂上からは、幕別市街はもとより池田、相川、十勝川温泉が見わたすことができ、参加者も「こ

内海 恵子さん
(札内あかしや町)



佐藤ヒサ子さん
(緑町二)

参加者の感想

私は、十年前に札内へ転入したものですから、町内にどのような施設があるのか知りたくて参加してみました。

見学会に参加してみても町が想像以上に広く感じました。また、町が進めている事業を見て、その事業にかかるお金の話しを聞いて、町づくりは大変な仕事だと思いました。

昨年、主人の転勤で幕別に住むようになったのですが、広報を読んでも書かれている施設がどこにあるのか、また、どのような施設があるのか、わからないので、知りたくて参加してみました。

参加して町内の様子がわかりよかったです。また、私たちの税金がどのように使われているのかもよくわかりました。

町に「道路を良くしてほしい」とか、言いたいことはたくさんありますが、見学会に参加して町全体のことも考えなければという気持ちになりました。

九月の見学会にも参加しようと考えています。議会の見学もぜひコースに入れてほしいですね。

「懇談会」でも話されましたが、ゴミ問題など家庭の主婦として町づくりに協力できることがたくさんあると思います。みんなが町づくりに参加することが大切ですね。

九月に予定している見学会も参加します。

3 浄水場

んな素晴らしい所があるとは知らなかった。早く完成してほしいですね」と話していました。

町の水道は昭和二十八年十二月、幕別市街を給水区域にスタートしました。しかし、市街地の発展とともに施設能力も限界に達し昭和四十八年札内市街を含めた広域幕別町上水道第一期拡張事業に着手、昭和五十年七月完成した。

給水人口二万人、最大給水量六千立方メートルで、現在一日最大給水量が三千五百立方メートルであるため施設能力は充分です。



衛生的施設に安心

4 美川・山田牧場

すぐれた農業経営に贈られる「十勝農業賞」を受賞した美川の山田久一さん宅を訪問しました。

山田さんは、経営規模五十八畝乳牛百一頭を飼育している酪農家です。

山田さん宅では、農家の生活、仕事を見学しました。農業を経験



あかしや終末処理場

5 あかしや終末処理場

あかしや南住宅団地における、水洗便所、厨房の汚水、浴水、洗濯水などを集中的に処理する施設として昭和五十年九月に完成しました。

処理は、①予備処理、②生物化学的処理、③汚泥処理の三段階で処理されます。処理された水は魚が生息できるほどにきれいな水です。



ミルカーの使い方も学びました

「昭和五十六年度予算特集」今月は、消防庁舎の建設です。総面積千九百平方メートル、総事業費三億二千九百万円をかけ二カ年で建設されます。

現庁舎は昭和三十六年に建設

三十六年に建設

町民の皆さんの生命と財産を守る幕別消防署庁舎が老朽化し増改築されることになりました。

現幕別消防署庁舎は、昭和三十六年総工費一千万円をかけ着工、翌三十七年六月に完成したもので

す。鉄骨コンクリート二階建、総面積五百四十二平方メートル、消防自動車五台を格納できる車庫を有し、当時としては、最も充実した庁舎でした。

しかし、二十年の間に幕別市街地区も大きく発展し、消防自動車の大型化、近代的機材の配備などが求められ、現在の施設では対応できない状態となり、この度の新

庁舎建設となったものです。完成は五十七年十月の予定

完成は五十七年十月の予定

建設地は、町立わかば幼稚園の東隣り（錦町八七番地）です。

事業規模は、総面積千九百平方メートル、鉄筋コンクリート二階建、総事業費三億二千九百万円をかけ建設します。

最優秀賞に

作文・中井君
ポスター・山崎君

町内火災予防コンクール

幕別消防署では、火災予防思想の普及・啓発を図ることを目的に町内の小学校高学年を対象に、火災予防の作文・ポスターのコンクールを行いました。

その結果、次の皆さんが入選しました。

●作文の部

- ▽最優秀賞・中井雅幸（相川小六年）
- ▽優秀賞・中井隆裕（同・四年）
- 小山いづみ（同・五年）
- 黒島学（同・六年）
- ▽佳作・廻淵一茂（同・四年）
- 黒島誠計（同・四年）
- 岡和田律子（中里小・五年）
- 土谷美津子（同・五年）
- 広保智紀（同・六年）
- 古川さなえ（相川小・六年）

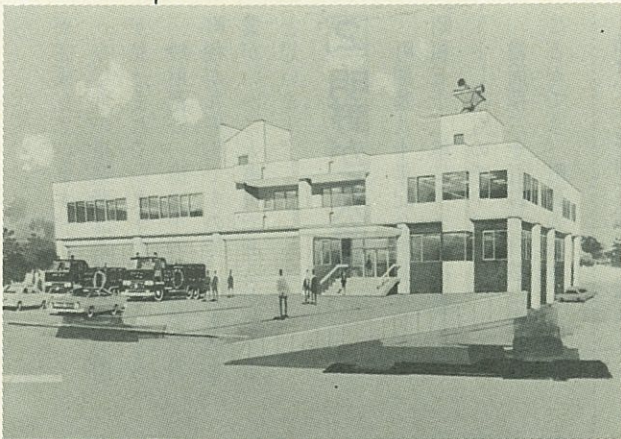
●ポスターの部

- ▽最優秀賞・山崎正博（棟内小・六年）
- ▽優秀賞・佐藤優美（新和小・五年）
- 大島和美（棟内小・六年）
- ▽佳作・大西勝美（新和小・四年）
- 久保正樹（古舞小・四年）
- 小倉麻希（同・五年）
- 小仲寿乃（棟内小・六年）
- 関仁（棟内小・六年）

幕別消防署庁舎を建設

総事業費は三億二千九百万円

昭和56年度
予算から③



▲庁舎完成予想図

▼増改築される消防署庁舎



台を格納する車庫、ホース乾燥室を設けています。また、二階には、消防本部事務室、消防長室、研修室、会議室を設けています。

このほかに、電動ホース収納、防火衣回転ロッカー、一斉指令装置、救助訓練設備などが新たに設けられています。

みんなで考えよう

苦しい国保会計

医療費のムダ使いはやめよう



日頃から正しい健康管理に心がけましょう。(1歳半検診から)

国民健康保険（以下国保という）税が引き上げられることは七月号でお知らせしました。今月号は、①増え続ける医療費にムダ使いはないか ②医療費は本当に三割だろうか、について皆さんと考えてみたいと思います。

医療費二世帯当り 三十六万五千円

皆さんは、お医者さんにかかったとき、どのくらいの医療費がかかっているかご存じですか。

昭和五十五年度では一世帯当り三十六万五千円、また、一人当りでは十万五千五百円にもなっています。

「病気になった人がお医者にかかる」これは当り前のことです。皆さんは受診の仕方による医療費のムダ使いはしていませんか。

例えば、一つの病気で病院を短期間に転々と渡り歩いたり、急病以外に夜間や休日に診療を求めた

り、また、必要以上の薬を求めたりしてはいませんか。このような小さなことも医療費のムダ使いにつながっています。

小さな医療費のムダ使いが積み積り積って国保会計を圧迫しているといえます。

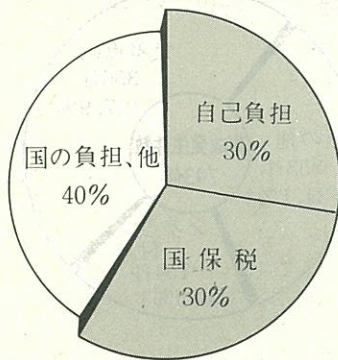
医療費が増えると国保税が上がる

国保会計は、七月号でもお知らせいたしました。加入している皆さんの国保税と国の補助金、そして町の繰出金で運営されています。

国保の役割は言うまでもなく、医療費の給付です。すなわち、医療費が増えれば、それだけ皆さんの国保税を皆さんに負担していただくかなければなりません。

気付かない小さな医療費のムダ使いが、全て国保税というかたちで皆さんの負担になってきます。

あなたの医療費の負担は？



医療費の負担は、病院などに支払

う三割分のほかに国保税を含めたものと言えるわけです。一人ひとりが自分の健康に心がけることが医療費を少なくし、また、国保税の負担も少なくなります。日頃から正しい健康管理に心がけるようにしましょう。

健康カルテ

④

“食中毒”

ようやく本格的な夏をむかえましたが、暑い夏といえば「食中毒」が心配される季節です。そこで、「食中毒」について皆さんと考えてみたいと思います。

食中毒とは、俗に食あたりといわれているもので、飲食物の為に急性の胃腸障害をおこす病気をいいます。

食中毒は、大きく分けると①細菌性のもの ②自然毒（キノコ、フグなどの毒）によるもの ③化学的物質（農薬など）によるものの三つに分けられます。このうち

細菌によるものが最も多く、全体の八割から九割を占めています。細菌性食中毒は、食品についてた細菌が繁殖して口から入り、腸管をおかしたり、食品の中で繁殖する時に出す毒素で中毒をおこしたりするものです。

症状は主に、腹痛・下痢・吐気があり、重症なものは発熱・頭痛激しい下痢・意識障害をおこすものもあります。食中毒の症状が出たら早目に医師の診察を受けてください。

予防は、夏の暑い間は生の魚介類は食べない。特に、長時間室温に放置されたものは危険です。また、調理後は早く食べ、保存する場合は、低温か高温に保つことです。そして、何よりも大切なことは、調理人の手指、調理器具、食器などを常に清潔にすることです。衛生管理に心がけ、食中毒にならないよう注意しましょう。

多い交差点 での事故

昭和55年帯広警察署管内交通事故概要から一

帯広警察署がまとめた「昭和五十五年交通事故概要」によりますと、交通事故の六六％は交差点で起きているという結果が報告されました。この「交通事故概要」をもとに皆さんと交通安全について考えてみたいと思います。

昭和五十五年に帯広警察署管内（幕別町・帯広市・音更町・芽室町・士幌町・上士幌町・中札内村更別村）で起きた交通事故は、七百四十三件で、そのうち幕別町で起きた事故は六十八件（九・二％）でした。死傷者は、死者二十四人（内、幕別町一人）傷者千六十五人（内、幕別町九十九人）でした。

町内で起きた死亡事故は、昨年十一月二十三日

国道38号線で無免許の二十歳の若者が運転する乗用車が、時速九十キロで前車を追越した際、ハンドル操作を誤り、路外に逸脱、コンクリート電柱に激突したものです。

交通事故を①原因 ②場所 ③時間 ④時期の4つの発生状況に分け皆さんと交通安全について考えてみたいと思います。

原因

最も多いのが わきみ運転

交通事故に結び付いた原因を調べてみますと、①わきみ運転 ②一時停止違反 ③スピードの出し過ぎの順となっています。

さらに、死亡事故からみますと死者二十四人のうち、スピードの出し過ぎ一六人、一時停止違反一四人、わきみ運転一三人と死者の半数以上を占めています。

小さな不注意が大きな事故に結び付いているわけです。

時間・時期

薄暮時に事故が集中

事故の多い時間帯は、午後四時から午後八時までのいわゆる薄暮時期に集中しています。この時間帯は一日の仕事が終わり家庭へ向う車や学校帰りの子供で道路が混雑し薄暮時のため発見が遅れ事故に結び付いていると考えられます。

また、一年間では六月から十月に事故が集中しており、特に八月には九十九件（一三％）の事故が発生しています。これは、観光、行楽など家族で出かける機会が多くなり、交通量の増加とスピードの出し過ぎが原因と考えられます。

場所

全体の六五・九％が 交差点で

事故発生場所では、図一のように交差点内が三百五十六件（四七・九％）、交差点付近が百三十四件（一八・〇％）と交差点での事故が全体の六五・九％を占めています。

安全運転五則を守り 交通事故をなくそう

このように、交通事故を分析し交通安全を考えると、一番大切なことは、運転者の安全運転の自覚といえます。

そこで、次の五則をみんなで守り悲惨な交通事故を起さないよう心がけましょう。

- ①安全速度を必ず守る
- ②カーブの手前ではスピードを落とす
- ③交差点では必ず安全を確かめる
- ④歩行者の安全を守る
- ⑤飲酒運転は絶対にしない

無投票当選で…

新農業委員決まる

農業委員会は、自作農の創設及び維持、農地などの利用関係の調整、農地の交換分合その他農地に関する仕事を行っています。

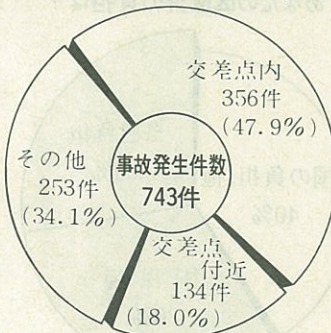
農業委員会は、二十三人の委員によって執行されていますが、そのうち八人は町議会や農業協同組合からの推せんによって選ばれ、残り十五人は農業に従事している人たちによって選ばれます。

その農業委員の任期が満了となり、選挙が行われました。

- その結果、委員の立候補が定員の十五名だったため、無投票で当選が決まりました。委員の任期は三年です。
- 当選した新委員は次の皆さんです。
- （敬称略）
- 妹尾 寿男（新和）
 - 沢田 清信（古舞・新）
 - 広瀬 喜章（千住・新）
 - 七島 信雄（明野）
 - 片山 利光（中里）
 - 浦田 邦夫（依田）

- 廻瀨 茂（相川）
 - 難波 春男（弘和）
 - 遠藤 信志（大豊・新）
 - 寺林 幸雄（美川）
 - 鈴木 良秋（千住）
 - 坂下 庄蔵（南勢）
 - 佐藤 忠幸（札内眺町）
 - 杉本 峰夫（明倫）
 - 中村 勝美（日新）
- 町議会が推せんした委員（学識経験者）
- 中寺常次郎 西田利夫 折笠要
 - 山中増雄 高橋勇
- 農業協同組合と農業共済組合が推せんした委員
- 富谷政雄 奈良武一 長谷川俊三

図一 場所別交通事故発生状況





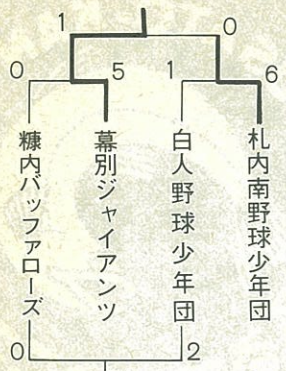
スポーツしていますか。
 健康な体づくりはスポーツ
 が一番です。
 家族でスポーツに参加して
 みましょう。

幕別ジャイアンツが優勝

第三回町内野球少年団春季大会

第三回町内野球少年団春季大会が六月二十一日、町営グラウンドにおいて四チームが参加して行われました。

その結果、幕別ジャイアンツが札内南野球少年団を1対0で敗り優勝。最優秀選手賞に金岡秀徳君(幕別)、打撃賞に木藤真志君(幕別)、敢闘賞に高木清全君(札内)がそれぞれ選ばれました。成績は左表のとおり。



優勝した幕別ジャイアンツ

第十四回町民朝野球大会終る

四十八チームが参加

第十四回町民朝野球大会が、五月二十六日から六月二十七日まで三十日間の日程で行われました。

参加チーム数も四十八チームと、これまでの大会にない盛り上がりとなり、町営球場の三グラウンドを使って熱戦が繰りひろげられました。

その結果、Aクラス・札内ツバメ石油、Bクラス・五位、Cクラス・葵クラブ、Dクラス・札内竹葉がそれぞれ優勝しました。各クラスの成績は次のとおり。

- Aクラス……準優勝・商工青年部 三位・ふせやスポーツ、役場
- Bクラス……準優勝・坂本石油 三位・幕別消防署、小川モーター
- Cクラス……準優勝・ブラボーズ、三位・幕別アルコールズ、笹島産業
- Dクラス……準優勝・幕別高校 三位・札内農協、ペプシ・コーラ

全町バトミントン大会終る

昭和五十六年度全町バトミントン選手権大会が六月二十八日、札内中学校体育館において行われました。大会には十六組三十二人が参加しました。

その結果、一般男子Aクラス・高道昭夫・伏屋隆一組、同Bクラス・野村雅俊・辻信吉組、一般女子・大野敦子・山中ゆかり組がそれぞれ優勝しました。

各クラスの成績は次のとおり。一般男子Aクラス……準優勝・



優勝した野村・辻組(上左)・伏屋・高道組(上右)・大野・山中組

寄付者のお名前

■町社会福祉協議会へ……

▽わかふじ寮(新得町)から家具展示販売開催のお礼として二万円
 ▽森田功さん(寿町)から全国農業会議所主催の農業委員選挙標語募集で一等当選のため三万円



(写真上) 伝達を受ける高木茂さん
 (写真下) 藤原工業(株)藤原清春さん

紺綬褒章(状)を伝達

町に対して多額の寄付があった個人団体に国から贈られる紺綬褒章(状)の伝達が七月九日町長室において行われました。

紺綬褒章(状)を受けられたのは高木茂さん(軍岡)と藤原工業株式会社(旭町)の個人一団体です。

高木さんから教育振興に役立ててほしいと、また、藤原工業株式会社からは社会福祉に役立ててほしいとそれぞれ百万円の寄付があったものです。

▽前田秀一さん(札内豊町)から保護司会で永年お世話になったお礼に活動資金として役立ててくださいと十万円。

■町保護司会へ……



幕別町ふるさと館

〒089-05 幕別町字依田384-3 ☎(01555)6-3117
AM9:30→PM6:00 毎週火曜日休館

サーモン通信⑩ 交配種、広尾へ引っこし

サケを淡水でどれだけの期間飼ひ続けられるか？サケをできるだけ大きく育て、強い稚魚として放流すれば、より多くの親サケが四年後に帰ってくる。本来はふ化してから百五十日前後で海へ下るはずのサケを淡水に閉じこめてみるの、そのための実験です。七月二十五日で淡水飼育記録は二百三十日になりました。放流せずに淡水で飼育していた百五十匹のうち、生存は三十四。

拒否反応が著しくなりました。この頃まではどんどん大きくなるのですが、しだいに食欲がなくなつて成長が伸びません。一方、純粋のサケと比較飼育していた交配種（オスのサケ×メスのサクラマス）も、サケより一か月遅れの七月中旬から食欲不振。そこでほとんどもを七月十八日にシーサイドパーク広尾の海洋水族館に移し、海水で飼育を続けてもらっています。

開拓生活体験のチャボに かわいいひよこ誕生

昨年のサバイバル・スクールで子供たちといっしょに開拓生活を体験したチャボに、七月十日から次々にひよこが誕生。ふるさと館入口の飼育箱の中には今、かわいらしいひよこが九羽、ビヨビヨと元気に育っています。親鶏はまだ五個くらい卵を抱いているの



がふえつづけたら：ヒッチコックの鳥（?!）
ふえそうな気配。ふるさと館はますますにぎやかになりまして。ところで、こんな調子でチャボ

ことしサバイバル・スクールに 行けなかつた子どもたちへ

「ごめんなき」の手紙

サバイバル・スクール81は予想のほか希望者が多くて、あつというまに四十人になってしまいました。「広報まくべつ」がみんなの家にとどくの差があつて、先着順にしたことで不公平になってしまいました。そのことに気づかなかつたふるさと館のおじさんが悪かつたのです。ごめんなき。

そこで、来年のサバイバル・スクールは七月一日から十五日までにとどいたハガキを「公開抽選」（みんなの見ている前でハガキを選ぶこと）します。また、ことし小学六年生で来年中生になる子どもたちも参加できるようにします（これは来年だけ）できるだけたくさんの子どもたちに参加のチ

オ許しく下さい。

連載 第19回 幕別 ものごと

ホームでは福次郎とシケが車窓から、見送りの人と別れの挨拶を交わしていた。汽笛がなる。北海道の玄関

不安にかられ、涙がとめどなく流れた。このころの汽車は、函館から釧路まで一日半がかりの長い旅だった。釧路の駅を降りると、街並はまだできたばかりの新しい家が建ちならび、人通りも少なかった。福次郎はその職人になった。ここでの生活は、シケにとってたいへんな苦勞の多い所だった。水を汲むのには、天秤で一町近くも運ばなければならず、また手桶一杯を十銭も出して買わねばならなかった。ある時、水がなくなつたので隣りに借りに行ったがこと

カイゼルひげの装蹄師

は二十歳で、行儀見習、花嫁修業をつんだ美しい新妻だった。明治四十五年二月、二人は結婚した。その当時、函館には線路の上を馬がひく乗合馬車があり、福次郎は「函館馬鉄会社」の装蹄師見習人だった。しかし、七月に電化され、会社を退職しなければならなかった。考えたあげく、釧路で装蹄師が足りないということ仲間

から聞き、見知らぬ土地ではあるがひと稼ぎして、また函館にもどつてこようと考え、シケと夜遅くまで話しあって納得させた。シケは身内もないけれど、知りあひもない。そのうえ初児を身ごもり、遠い国など望むはずはなかったが、福次郎の性格を知っているシケは夫に従うほかなかった。遠ざかつていく函館を車窓から眺めているうちに、シケは淋しさと

受け合格した。当時、国家試験があったのは、医者と獣医と装蹄師であった。日露戦争（明治三十七～三十八年）で馬の力の差をまざまざと見せつけられた日本の軍部は、ヨーロッパから大型の馬を輸入し、改良に努めた。そのため北海道にも多くの種馬が入り、開拓や農耕のほか、運搬、軍馬と大量に生産され、明治四十三年には幕別だけでも二千頭を超えたという。福次郎は生きものが好きだった。中でも馬が好きで、自分の住む家が借家であるのに、蹄鉄所（現在の役場庁舎のある場所）と馬屋は自分の持ち屋であった。カイゼルひげをなぜなぜ、馬上での姿は皇帝カイゼルになったようないい気分だった。几帳面な性格の福次郎は、技術もすぐれていた。馬の足の恰好をなおしたり、蹄葉炎という病によくあつた広頭連尾蹄鉄を考案したりもしたので、地元はもちろん、遠く忠類から足を運んできた人もいたという。福次郎は昭和七年から種馬を買い、馬の改良にも貢献した。大正七年から昭和二十五年までの三十二年間、多くの職人を育てるとともに、馬産王国・幕別を支えた蹄鉄師といえよう。その後、息子・勝美に引き継ぎ昭和四十一年一月、七十八歳でこの世を去つた。



（文・岩田 繁行）